



マスコミ青山

会報

Nov.2006 No.25

特集

マスコミ青山会は今年で創立三十六周年を迎えます。このたび会報のリニューアルに際して長年マスコミ業界で活躍の安藤孝四郎会長と本学就職部長も兼ねておられる文学部仁科貞文教授とのマスコミ対談を実施しました。また後半からは現役のマスコミ研究会の学生も加わり、世代を超えたマスコミ論議が活発に行われましたのでその一部をご紹介します。

(司会 会報編集部 鈴木章)

(司会) 本日はお忙しいなかありがとうございます。さっそくですが今年でマスコミ青山会は三十六年目を迎えることになりました。冒頭安藤会長からマスコミ青山会の近況などお伺いできますか。

(安藤) はい、マスコミ青山会はもとと一九七〇年にマスコミにいる人たちの会という漠然とした集まりからはじまったんです。当初はちゃんとした会ではなかったんですね。でもその年から換算すると今年で三十六年

という非常に歴史のある会ということになります。最初は新聞社、通信社だけだったのですが、放送局が加わり広告会社、出版社そして制作会社、映像プロダクションというように広く集まるようになり現在の会員数は三〇〇〇名を超えています。

(司会) 現在の活動はどのようなものですか。

(安藤) この会は青山学院という一つの絆に集まるわけですから会員相互の親睦や啓発の活動が中心になっています。具体的には年一回の総会、今年は一二月一六日の土曜日に実施しますが毎年理事長や学長さんたちも参加してくれます。あとは二ヶ月に一回位のわりで「フォーラム21」というのをやっています。これは副会長である福田さん(集英社取締役)が中心となつて六本木のザビルで講師を招いて勉強会ですね。これは現役の学生たちも参加するようになりました。

(仁科) 会長も大変ですね。

(安藤) ええ大変なんです(笑)。それともうひとつ、仁科先生たち就職課のご協力のもとマスコミ志望の学生たちにむけた就職説明会ですね。だいたいこの三つが主な活動です。

(仁科) いまマスコミ向けの就職ガイダンスをやること教室に入りきらないほどの学生たちが集まります。マスコミ青山会のおかげだと思いますよ。

(安藤) いえいえ、とんでもありません(笑)。ただマスコミ業界の人間というのは一人一人は日常の業務が多忙で大変なのですが優秀な人たちが多くいるので面白そうな感じを受けるのでしょうか。

(仁科) マスコミ業界のガイダンスでは、なぜマスコミ業界が人気なのかという説明に、若いときから責任をたくさんもたせてくれるからということを言っています。これって学生たちには結構魅力なんですね。それともうひとつ、有名人に会える(笑)。

(安藤) そうそう(笑)：あとは世の中の話題になる出来事や事件のそばにいってもいられるというのも魅力のひとつなんでしょうね。

(仁科) マスコミというのは

若いときから活躍できていい反面、中年、壮年になると自分の幅を広げていかなければならない面もありますよね。

(安藤) そう、若いときからエネルギーが発散されるので途中で種切れになってしまいます。使い捨てが激しい業界だとも言えるかも知れませんね。

(仁科) 広告業界や新聞業界などは会社を辞めたあとと大学の先生になつていらっしゃる方がけっこういます。仕事のなかで蓄積されたものを後輩に受け継いでもらいたいという気持ち強いのでしょうか。

(安藤) また地域ボランティアやNPOなどで活躍する人たちは他の業界の人より上手かも知れません。

(司会) 最近は一十の進歩でかなりマスコミ業界も変化してきていますが、マスコミ青山会としては今後会員の幅をどのあたりまで広げていくお考えですか。

(安藤) 二〇一一年にテレビの地上波が完全にデジタル化されます。そうなりますと今度は双方向性のコミュニケーションが可能になります。今まで視聴者だった人が発信者にもなるわけです。その意味では今後はデジタル業界の人たちやIT関係の人たちも積極的に会員になっていただくことにならなんでしょうね。マスコミ青山会も大きく変わっていくと思います。



(9月14日、現役学生も含め活発な議論が行われた。会場：青学会館)



(司会)ではそろそろ現役の学生たちにも参加してもらい、世代を超えたマスコミ論議に進みたいと思います。本日はサークルのマスコミ研究会の学生三名が来ていますので、まずは自己紹介からはじめたいと思います。

(金田) 国際政治経済学部三年の金田梨乃です。マス研の部長をしています。マス研に入った理由は、高校時代の先輩から誘われたのがキッカケですが、最初はあまり興味がなかったんです。でも一年のときマス研の情報誌である「フリーウォーカー青山」の編集長をやらされてから急にマスコミに興味が出てきました。

(司会) マスコミのどんなところに興味が出てきたのですか。

(金田) 特に印刷物ですね。今ではマス研に入つてよかったなと思つています。

(高橋) 経済学部経済学科二年の高橋千明です。わたしの場合はもともとマスコミ業界には興味がありました。入学式の時配られたマス研のフリーペーパーにとっても感動して、わたしもこのような制作物に関わりたいなって思つて入部したのがキッカケです。そして一年のときにその制作に関わつたのですがとても大変な反面やりがいもありました。

(司会) やつぱり印刷物のようなものに興味があつたのですか。

(高橋) いえ、いまはテレビにとっても関心があります。テレビを見るのがとても好きなので(笑)……

(高山) 理工学部電子工学科二年の高山皓光です。高校時代から音響通信とくにラジオがとて好きでしたのでこの学科を選びました。マス研に入った理由も今年からマス研にラジオ班ができたことがキッカケです。ラジオとかテレビの番組など皆でひとつのものを作り上げるような仕事ができたらいいなと思つています。

(司会) いろいろなキッカケがあるんですね。ところでいままでのお二方の話を聞いていてどんな意見を持ちましたか。

(金田) 就職のことをお聞きしたいのですが、マスコミ業界の就活は

早いのでしょうか、とくに
アナウンサーとか……

(安藤) とくに早いとは限り
ないでしょう。でもアナウン
サーは大変みたいですよ。
テレビ局の報道にとつては

いかに他局を凌駕するような人気アナがとれるかということが
局の顔でありまた生命線ですからね。

(司会) 仁科先生、就職協定というのは今でもあるんですか。

(仁科) 似たようなものはあります。業界ごとではなく八〇〇社
くらいが私大連と協定を結んでいます。四月一日以前は採用活
動はしませんというものです。でもルール違反と知りながらやっ
ちやうところはありますね(笑)。

(金田) わたしの周りにもマスコミ業界に行きたいという人が多いの
ですが、マスコミ業界を目指すためにいまやるべきことは何ですか。

(安藤) 一般論で言うと、マスコミ業界で求めているものは自分に
しか見せられない個性的なものであるかどうかということですが、
それと相反することのように聞こえますが、もうひとつは一般
常識をしっかりとっているかどうかということでしょうね。要する
に自分だけの個性的なものと社会常識的なものとの総合値とい
うことだと思つています。

(仁科) 経済産業省が作った社会人基礎力という指標があるので
ですが、そこには十二項目あります。たとえば主体性、働きかけ力、
実行力、創造性、計画力、課題発見力などがあるんですが、面白
いのはチームで働く力というものがあるんです。社会に出たら皆と
一緒にやる必要なんだということですね。

(安藤) なかでもあえてマスコミ業界に必要ということだと発信力
ということでしょう。チームで働くためにはそれがないとかなか
うまくいかない。これつてアメリカ人はすごいんですよ。プレゼンテ
ーション能力とか説得力ですね。就職の面接の評価というのは
絶対評価ではないんです。隣の人と比べてどちらが向いているかと
いう相対評価なんです。そのためには相手に負けない自己発信能
力がないといけません。

(司会) 高橋さんは先ほどテレビにとっても関心があると言つてまし
たが、テレビのどんなところに関心があるんですか。

(高橋) とにかくテレビが好き
なんです。音楽番組から

ニュース番組、バラエティ、
ドラマと朝から晩まで時間
があれば見ているんです。

(安藤) ただ見てるだけじゃなく
その番組のどこがどのようによ
いのか、どうしてそれが自分は好き
なのかということを考えながら
見なくちゃいけない。今度は
自分が発信する側になるわけだ
から、そういう視点をほつきり言
えることが大事なんです。あれも
おもしろい、これもおもしろいだけじゃダメなんです。

(司会) 高山くんはラジオが好きでラジオ班に入ったと言つて
ましたが、いまどんなことをやっているんですか。

(高山) ラジオと言ってもインターネットラジオなんです、
大学でつたものをパソコンに載せて流しているんです。

(仁科) 放送局の認可がいらぬブログとか、ミクシイの音声版
ということですよ。

(安藤) リスナーは掴めるわけ?

(高山) はい、クリック数でわかります。

(安藤) なるほどクリック数で分かるんだ。じゃあ可能性あるね。
広告料とれるから(笑)……

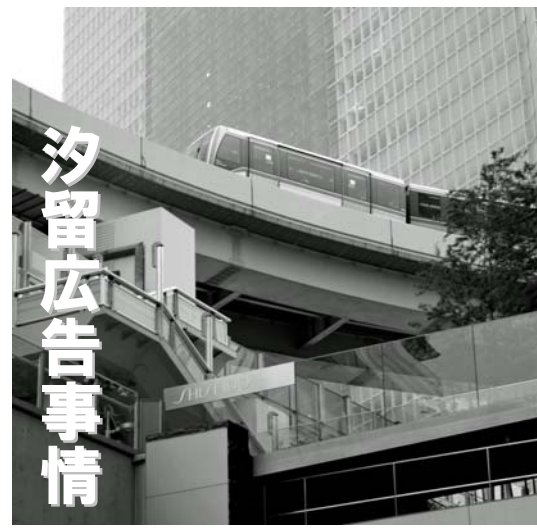
このようにマスコミ業界の大先輩とまたマスコミを知らない若い
世代の楽しい会話は盛り上がりました。紙面の都合上、この
続きは新しいマスコミ青山会のホームページ(※)をご覧ください
ことになりましたが、ご了承ください。
最後にお二方からこんなコメントをいただきました。

(安藤) これからのマスコミ青山会のテーマとしては、世の中に対
してなにかを発信をしていきたいと思つています。それがインタ
ーネットなのかどうかはわかりませんが、要するにマスコミ青山
会はここにありますよということを書いていきたいと思つています。それ
ともうひとつ母校である青山学院のためになりたいです。それ
マスコミ青山会が社会的にも認知されればそれが母校のためにな
るわけですから。そのためにも今後は君たちのような若いマスコ
ミ人が多く参加してくれることを願っています。

(仁科) マスコミに関心のある在校生グループとマスコミ青山会が
ドッキングしたような活動ができるといいかも知れませんが(終)

(※) マスコミ青山会ホームページ (http://www.mc-aoyama.net)





汐留広告事情

広告は世の中を写す鏡だと言われています。構造改革や規制緩和によって企業の業績は改善しつつあるようですが、わたしたち一般市民にはなかなかその実感がわいてこないようにも思えます。そこで生活に身近な広告事情をみることに、その実態をちょっと探ってみました。
(株電通 鈴木章)

コラム
TV局の裏側話〜第一回：TV局に入るためには…
(株テレビ朝日 佐々木基(九二年卒))

こんにちは、テレビ朝日の佐々木基です。皆さんご興味のあるTV局の裏側話第一回は学生さん向けにTV局に入るための？お話をします。TV局には厳正なID社員カードがあり、それがないと絶対に入れません。全社員首からこのIDカードをブラさげています。TV局は公共の電波を預かり、スタジオなどで放送を送っているの、不審者が入り情報漏洩や電波ジャックなどされることはメディアとして決して許されないとだからです。もちろん社長でもIDカードを所持してないとガードマンに止められます。このIDカードさえあれば会議室の施錠も開錠でき、また社員食堂でもピツとかざすだけで昼食が食べられ(もちろん翌月の給料天引きです)テレサシヨップで買い物も出来ます。日本一厳重といわれる六本木ヒルズ森タワーもこれです。ですからこのカードを忘れた時は全く仕事になりませんが、しかし何でも出来るこの万能カード、実は全ての行動が会社側にデータで管理追跡されてしまう恐ろしいカードでもあるのです…。(学生にとつて「入る」の意味が違ったかな…)

今回は、「あの人気ドラマの大物女優の素顔！」です。

データその①新聞・テレビ番組が6期連続増(電通調べ)

2006年上半年期(1～6月)のマスコミ4媒体広告出稿量

- ・新聞(前年同期比1.2%増↑)
- ・雑誌(" 2.0%減↓)
- ・ラジオ(" 1.8%減↓)
- ・テレビ番組(" 0.3%増↑)
- ・テレビスポット(" 1.1%減↓)

(※)トリノ冬季オリンピックやワールドカップなどが好材料となり堅調だったが、4媒体では新聞・テレビ(番組)のみが前年比増。

データその②通期では4年連続増の見込み(日経広研予測)

2006年通期(4～3月)のマスコミ4媒体広告出稿量予測

- ・新聞(前年同期比2.6%減↓)
- ・雑誌(" 1.4%減↓)
- ・ラジオ(" 2.9%減↓)
- ・テレビ(" 0.7%増↑)

(※)但しインターネットやSP広告費などの4媒体以外が広告費合計の伸びを支え、全体では2.4%増の予測。

【フォーラム21】活動報告

「フォーラム21」はマスコミ青山会メンバーのサロン&勉強会として活動しています。今年は下記の3回実施しました。誰でも参加できますので詳しくは株集英社福田収(03-3230-6361)(o_fukuda@shueisya.co.jp)までご連絡ください。

- 06年2月24日…(講師)若宮清氏(ジャーナリスト)
若宮氏はフィリピンの故アキノ大統領暗殺現場の目撃者として有名。江沢民から胡錦濤主席への権力移行がいかに苛烈に行われたかを中心に中国が考えている「靖国問題」とはなにかがテーマ。
- 06年5月23日…(講師)橘由里香氏(東大大学院助手・理学博士)
「はやぶさ」から小惑星「イトカワ」に着陸して岩石を採取するというニュースから「小惑星の衝突と私たちの地球」がテーマ。
- 06年10月18日…(講師)塩谷紘氏(国際ジャーナリスト)
氏はAP通信記者、リーダーズダイジェスト誌編集長、文藝春秋北米総局長などを歴任、近訳書に「ビッグピクチャー・ハリウッドを動かす金と権力の新論理」。テーマは「私がみたアメリカ大統領の通信簿」。

マスコミ業界就職データ

青山学院大学マスコミ業界就職状況
全124名(2006年7月31日現在)

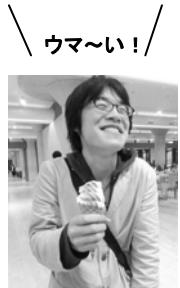
既会員社	男	女
【新聞】	2	2
【通信社】	1	0
【出版】	10	19
【テレビ・ラジオ・番組制作】	11	11
【広告】	28	24
【通信他】	8	8
合計	60	64



相模原キャンパスだより

学生たちは今どんなキャンパスライフを過ごしているのでしょうか。現役マスコミ研究会の青学生が相模原キャンパスよりレポートしてくれました。
(理工学部 二年高山皓光)

「相模原キャンパスからこんにちは！いま青学生のなかで人気なのが購買の日替わりソフトクリーム。青山、相模原の両キャンパスで売ってます。値段は¥160と¥180。人気の秘密は、なんと二日に一回味が変わるってこと。行きかう学生も『今日のアイス何味？』…その味は三十種類以上でしかもすべて販売員の方の手作りなんです。ぜひ一度食べてみる価値ありです！」



ウマ〜い！



12月16日(土) マスコミ青山会総会開催

今年のマスコミ青山会総会の日程が決まりました。昨年に引き続き土曜日の開催になりますのでぜひ多くの方の参加をお待ちしています。また講演には青学大文学部卒業の寺島しのぶさんをお迎えし舞台や映画の楽しいお話を伺う予定です。

■日時 06年12月16日(土) 16:00~20:00
 ■場所 青山学院大学総研ビル12階大ホールおよび
 アイビーホール青学学生会館渋谷区渋谷4-4-25
 (TEL) 03-3409-8181

■会費 10000円(年会費3000円+総会費7000円)
 (学生の総会参加費5000円)

■内容 ①第一部 16:00~17:45
 (総会、寺島しのぶ講演)

②第二部 18:00~20:00
 (懇親パーティ)
 ……青学学生会館サラン(地階1階)

総会・講演会と懇親パーティは会場が別です。ご注意ください。

(※)お申込み:①FAXは同封の総会案内裏面に必要事項を記入後 03-3409-8006
 (マスコミ青山会事務局)まで

②Eメールは、info@mc-aoyama.net
 締め切り:11月30日

【マスコミQ&A】

毎年開催している現役学生に対するマスコミ業界志望者への説明会です。

- 日時:06年11月20日(月) 18:00~21:00
- 場所:9号館 910室
- 内容:マスコミ業界の概要と採用側のチェックポイント
 (新聞・出版)(テレビ・ラジオ)(広告・制作)の3カテゴリから若手社員と中堅社員の方に話をしてもらいます。若手からはどのようにして入社したか、中堅からは面接官としてどのような点を評価するか、などが中心です。
- 問い合わせ:青山学院大学 進路就職センター

十二月十六日(土)総会終了後

講演:「寺島しのぶ 女優を語る」(仮)



寺島しのぶ

一九七二年京都市生まれ、文学部卒。父は歌舞伎俳優七代目尾上菊五郎、母は女優の富司純子。NHK「琉球の風」(九三年)で本格的に女優デビュー。その後数々の舞台で菊田一夫演劇賞特別賞や紀伊国屋演劇賞個人賞などを受ける。最近では「赤目四十八瀧心中未遂」や「ヴァイプリータ」で見た演技で映画賞を総ナメにするなど現在を代表する実力派女優として活躍中。また渡辺淳一原作の話題作「愛の流刑地」も近日公開予定。

ホームページが新しくなりました。
<http://www.mc-aoyama.net>

今回の会報リニューアルにともない、マスコミ青山会のホームページも新しく生まれ変わりました。アドレスも変更しましたので右記の新しいアドレスに更新をお願いします。

会員相互のコミュニケーションに役立つホームページにしたいと思っておりますので、皆さんの意見やご希望をぜひお聞かせください。

e-mail info@mc-aoyama.net

【会員消息】

澤崎詔一さん(六五商)は日本地域社会研究所の企画開発部兼IT事業部長に転職。

小林博さん(五六文)は茨城キリスト教大学を退職。

謝辞

会報編集一五年

藤田賢吾

この度、一五年に亘るマスコミ青山会の会報編集を辞めることになりました。一言では言い表しがたい楽しい作業をさせていただいたと思っています。

八二年、この会を再構築したときの会長、横澤誠一氏(元毎日新聞社取締役、次いで八九年に会長となられた山室英男氏)元NHK解説委員長、この二人は、僕が学生の頃から存じ上げていた大学新聞編集局の大先輩で、山室さんから広報の会報を発行するという話が出たときは自ら名乗りあげたように思います。それ以来一五年間、二四号を発行してきました。集英社の福田収氏をはじめ多くの方々のご協力があったことと思っております。

当時はまだパソコンが普及しておらず、原稿はすべてワープロで入力し台紙に貼り付けて印刷所に持ち込んだものです。二千通もの会報の発送や再送の作業で、延々何千通もの発送を数週間かけて行ったことは今となっては懐かしく思い出されます。

編集という作業は、とても面白く楽しいものですが、それもこれも会員の方々のご協力の賜物で、心からお礼申し上げます。新しくなった会報の編集にどうかこれまで以上に、ご協力をしていただきたいと願っております。

【編集後記】

今号より会報の編集を担当することになりました。十五年間にとわたりこの難作業を続けてこられた藤田賢吾氏にあらためて敬意と感謝を申し上げます。今までのイメージを壊さないようにレイアウトを変えてみましたが、さていかがだったでしょうか。みなさまのご意見やご感想をいただければ幸いです。

冒頭の座談会を実施したのがまた暑さの残る九月でした。それから約二ヶ月、やっと原稿を整理し終え皆さまのお手元に届けることができました。これからは会のホームページも充実させ、会員相互のコミュニケーションに役立つよう努力するつもりです。なにとぞよろしくお願いたします。

会員の朝倉匠子さん(二分間)で会った人をファンにさせる「自分の鍛え方」(ソーテック社)が刊行されました。五冊目の著作です。ぜひ一読ください。

「あたたかき十一月も すみにけり」(中村草田男)

(編集担当 鈴木章)

(TEL) 03-0001 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-1-23-1

(e-mail) info@mc-aoyama.net